



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

News Letter

ニュースレター

2024.12 vol.128



テナントオーナー、まちづくり関係者、イベント参加者など
さまざまな人と人、想いがつながる笠寺のまちづくり

特集◎ 想いがつながるまちづくり

笠寺のまちづくりとエリアリノベーション

調査研究

三の丸地区再生シンポジウムを開催しました！

まちづくり支援

交流・座談会を開催

まちづくり来ぶらり

名古屋能楽堂

想いがつながるまちづくり

笠寺のまちづくりとエリアリノベーション

出勤前や帰宅前にふらりと立ち寄れるような立ち飲みスタイルの「マチ・スタンド motokasa」。軒先空間も利用し、まちの賑わい創出に貢献しています。



エリアリノベーションのきっかけとなった「かさでらのまちビル」。



笠寺観音では、毎月6のつく日に境内で青空市「六の市」が開催され、訪れる人で賑わいます。



不定期で行われる笠寺観音商店街のイベントの様子。ファミリー層にも人気です。

こだわりのコーヒーとビールで 笠寺観音商店街に賑わいを！

名古屋市南区、名鉄本笠寺駅から尾張四観音の一つ天林山笠覆寺（通称：笠寺観音）の門前にかけて広がる笠寺観音商店街は、旧東海道の鳴海宿から熱田宮に至る街道筋にあり、その雰囲気は今も感じられる商店街です。

名鉄本笠寺駅前の一角、長らく空き店舗だったところに、2024年11月新しくカフェがオープンしました。スペシャルティコーヒーとクラフトビールのお店マチ・スタンドmotokasaは、『2023年度名古屋市商店街商業機能再生モデル事業（ナゴヤ商店街オープン）』^{※1}に選定された空き店舗物件をリノベーションした店舗で、まちの賑わいづくり、交流の場としても期待されています。「若い頃から“自分のお店をやりたい”

という想いを持っていました。とにかく何か動き出そうと思って、かさでらのまち食堂^{※2}のシェフ募集の説明会に参加したら、「食堂じゃなくて、お店を出しませんか。ぴったりの物件があるんですよ」と、かさでらのまち食堂の運営代表であり笠寺で建築設計事務所を主宰する宮本久美子さんから声をかけられ、ちょうどテナント事業者を探していたところだったそうで、とんとん話が進んでいきました」。そう話すのは、テナントオーナーの窪田久美子さん。お店をやりたいという自分の夢が、地域を活性化したいというまちづくりにつながったことは、よかったと言えます。「気持ちの面では、つらいときに励ましてくれる仲間ができたこと。また、まち全体の事業としてみんなで進めたので、オープン前から認知度が高く、集客につながる期待を感じました」。

空き店舗再生と 笠寺のまちづくり

笠寺観音商店街のまちづくりは歴史が古く、2007年にまちづくり団体「かんでらmonzen亭」が立ち上げられ、それから盛んに行われています。さまざまなイベントや社会実験、活動を行っていますが、転機となったのは2018年のナゴヤ商店街オープン。当時ナゴヤ商店街オープンの参加者のひとりだった宮本さんの協力を得て、対象となった築35年の空き店舗ビルをリノベーションし、2019年にはビルの半地階に日替わりシェフの食堂「かさでらのまち食堂」をオープンしました。これを皮切りに、「かさでらのまち箱」、「居酒屋YasaiBASE」と続き、「マチ・スタンドmotokasa」で、かんでらmonzen亭と宮本さんが関与している物件だけでも



笠寺のリノベーション物件。左から、「かざでらのまち食堂」「かざでらのまち箱」「居酒屋Yasai BASE」



上／「笠寺道くさ社会実験」で設置されたコミュニケーションボード
下／「笠寺ミツバチプロジェクト」の花壇

4軒目となります。かんでらmonzen亭の青山知弘さんは、「常設の店舗は、イベントよりも認知度が高く客層が広がります。訪れる人と深い関係が作れます。まちにそういったリノベーション店舗が増えていくことで、まちを訪れる人が増えると同時に、人とのつながりの輪が広がることを期待しています」と語ります。

さらに、笠寺においては、物件オーナーもまた、まちの活性化に力を入れています。マチ・スタンドmotokasaの物件オーナーである名鉄エリアパートナーズ株式会社 地域共創部の上野寿之部長は次のように話します。「2021年の『笠寺道くさ社会実験』※3に、物件前の軒先空間を提供したことがきっかけで、“おもしろい!”と思うようになりました。その思いがあって、ずっと空き店舗だった物件をナゴヤ商店街オープンに申請することに賛同したのです。地域愛のあるテナントオーナーの窪田さんにはと

ても期待していますし、“関係者みんなでまちを盛り上げよう!”という想いで私たちも関わっています」。

このように、笠寺のまちには自分の夢を実現させたい人、まちで何かをやりたい人を応援する土壌があります。想いのある人たちの関わりがつながり、笠寺のまちには賑わいが生まれているのです。

Nagoya まちなかウォークアブル戦略と エリアリノベーション

一方、名古屋市住宅都市局は、2024年3月に『Nagoyaまちなかウォークアブル戦略』を策定し、「道路・公園などの都市空間を活かして、居心地が良く歩きたくなるような人中心の場所～ウォークアブルな空間～を再生することで、サードプレイスがあふれるNAGOYA」を目標に掲げました。これを実現する要素の一つとして、『エリアリノベーション』

が挙げられています。「地域の既存建物を地域の賑わいやコミュニティ活性化に資する場となるようリノベーションし、これをエリア内の連鎖につなげていくことで、エリアの価値向上を目指すもの」として、名古屋まちづくり公社と地域のまちづくり団体、名古屋市が連携・協力して取り組む『エリアリノベーション促進事業』を展開していきます。取組内容としては、物件オーナーと出店希望者のマッチング、活用方針の話し合い、リノベーション工事の実施、開業・経営支援などがあげられます。

名古屋まちづくり公社では、エリアリノベーション促進事業などにより、笠寺のまちのように、まちに対して思いのある人、挑戦する人を支援し、地域主体のまちづくりが進むことを願っています。地域住民、まちを訪れる人、まちづくり団体、企業など全員が関わり、居心地の良いウォークアブルなまちづくりが、多くの地域に広がっていくことを期待します。

※1 2018年度から続く名古屋市経済局が主催する商店街再生事業。商店街内の空き店舗を対象に、活性化のきっかけとなりうる魅力ある店舗を実際にオープンすることを目指し、その基礎となる事業プランを作成するワークショップ「ナゴヤ商店街オープン」を実施。ワークショップで作成した事業プランをもとに開業に向けた詳細設計・リノベーションを行う。リノベーションに係る工事費等について補助メニューが利用可能。

※2 2018年度ナゴヤ商店街オープンのワークショップを経て2019年に開店。複数のシェフが「キッチン・時間・空間」をシェアし、日替わりで自分のお店として営業している。

※3 名古屋市地域まちづくり活動助成を活用した社会実験。1ヶ月の間、駅前約100mの通りの軒先に物販ワゴンや本箱ワゴンを設置するほか、壁に絵しりとりやクイズが出題されたパネルを設置するなど、歩いて楽しいウォークアブルなまちの実現手法を探るために行われた。

マチ・スタンドmotokasa×笠寺ミツバチプロジェクト 「観音はちみつ」でつくったクラフトビール

かんでらmonzen亭の活動の一つに『笠寺ミツバチプロジェクト』があります。自然と共生することを目指し、笠寺のまちの屋上でミツバチを飼育。商店街には「笠寺まちかどBee Spot」と名付けられた花壇や植え込みが点在しています。笠寺ミツバチがまちで集めたはちみつを採蜜し、オリジナル商品「観音はちみつ」として販売しています。そして今回、そのはちみつを使ったクラフトビールが誕生! マチ・スタンドmotokasaでお楽しみいただけます。





三の丸地区再生シンポジウムを開催しました！

名古屋城の城郭内に位置する官庁街「三の丸地区」は今、変化の時期を迎えようとしています。今後、庁舎の更新時期を迎えるなか、名古屋の、そして名古屋圏全体の新たな拠点として再生していくことが期待されています。

今回、三の丸地区の将来について、「まちづくり」と「防災」の観点から考えるシンポジウムを令和6年10月21日（月）に開催し、140人の方にご参加いただきました。

三の丸地区の概要

三の丸地区は、名古屋市の都心部に位置し、北は名城地区、南は栄地区に隣接しています。江戸時代の清須越により武家屋敷地として成立し、その後、陸軍用地を経て、現在は、国・愛知県・名古屋市の庁舎などが立地する緑豊かな官庁街が形成されています。



まちづくり

三の丸地区の再生に向けた重要な視点として、服部敦氏（中部大学）からは、現状の三の丸地区がミッシングリンクになっているとの問題提起のうえで、都市の軸線と重要文化財である愛知県・名古屋市の本庁舎の利活用に向けた提案がなされました。また、佐藤久美氏（名古屋国際工科専門職大学）からは、アイデンティティを世界に向けて発信するという観点で、祭りとからかりの重要性、大竹正芳氏（名古屋商工会議所）からは、情報発信・地区特性を生かしたまちづくり・アクセス利便性の向上について述べられました。坂本敏彦氏（名古屋市）からは、今後の三の丸地区のまちづくりの推進に向けて、まちづくり構想を策定するとともに、社会実験を行いながら、県民市民や関係者の機運を高めていきたいとの発言がありました。コーディネーターの加藤義人氏（名古屋都市センター特任アドバイザー）からは、今回の成果がまちづくり構想に引き継がれ、県民市民の関心を高めることでまちづくりが進んでいくことが期待されると締めくくられました。



防災

能登半島地震での現地支援の経験を唐澤秀之氏（三重県）から情報提供いただき、防災拠点の検討経緯や能登半島地震時における組織間連携の欠如について福和伸夫氏（名古屋大学）から基調講演をいただきました。防災司令塔機能強化の実現に向けたポイントとして、福山由朗氏（内閣府）は、災害時に組織全体で対応できるよう訓練を通じた人材育成の大切さ、則武聖子氏（愛知県）からは、現地対策本部で国と都道府県が連携するために顔の見える関係を速やかに構築することの重要性、川野佳慶氏（中部電力株）からは、意思決定できる者が参集し、対面で、通信設備等が整備された場に情報が一箇所に集められるなどプラットフォームが構築されることを挙げられました。コーディネーターの加藤義人氏からは、三の丸が広域的な防災司令塔となることの必要性は共通認識が持てたものの、行政間を越えての調整の難しさを踏まえて、実現に向けて模索することが重要であると締めくくられました。



三の丸地区に関する報告書は、名古屋都市センターのHPで公開しております。





スタートアップ助成団体

交流・座談会を開催しました。

駅のそば・住宅地・駐車場・公園・道路…

名古屋のまちのいたるところ、あなたの隣でも、新たなまちの物語が生まれています。

そんな物語を生み育む皆さんを応援したいと、名古屋都市センターでは「地域まちづくり支援制度」でまちづくり活動を支援しており、そのメニューとして、実際に活動しているまちづくり団体に、必要な活動費用の一部を助成する制度があります。その中の一つ「スタートアップ助成」は、活動を開始して間もない団体向けの制度で、今年度は13団体が採択され活動しています。

そんな団体の活動のヒントや問題解決の場の創出、そして何より、ご縁あって一緒に助成団体として活動される団体同士、ゆるーく楽しく交流いただければ…との思いで、昨年よりスタートした“交流・座談会”。

今年も全団体の参加で開催しました！

まずは全員で自己紹介。予め集めた【自己紹介シート】を見ながら、アイスブレイクに事務局で準備したぬいぐるみを発表者が順番に回すというルールでスタート。



その後、事前に配布したランプで3つのグループに分かれ、座談タイムパート1の開始。テーマに沿ってのグルーブトークです。

座談テーマ

「まちづくりって楽しい!と感じる瞬間!」

各々テーマトークで話した内容、メッセージを色画用紙に記入。それを広報スペースの自分の団体スペースに掲示して共有



活動を実践する者同士、 初対面とは思えないほど大いに盛り上がりました！

座談タイムパート2は完全フリー交流。早速あちこちで談笑の輪が！日頃の活動での悩み、アイデアの交換などざっくばらんにトーク。「様々な活動を知ることができ刺激になりました!」「団体が横につながること、名古屋のまちがより魅力的になると思います!」などの感想が寄せられました。



そして最後は 全員で 記念撮影！



昨年の交流会開催後にさまざまな形で団体間のコラボや協力が生まれました。今年度もこれからどんな新しい交流が始まるか楽しみです！

11階喫茶コーナーで、
助成団体の活動の様子を広報しています。
是非お立ち寄りください。



令和5年度の助成団体の活動の様子をまとめた
「活動助成Report Book」を発行しました。
こちらのコーナーに配架しております。

※名古屋都市センターホームページでもご覧いただけます。





名古屋能楽堂

能楽堂とは、日本の伝統芸能「能楽」を上演するための特別な劇場で、屋根のある能舞台と見所（けんしよ）と呼ばれる客席を設けています。屋内にありながら屋根がついているのは、昔、能楽が屋外で上演されていた名残です。

名古屋能楽堂は、1997年（平成9年）4月名古屋城正門前に開館しました。総木曾楕づくりの本格的な能舞台、630席の客席をそなえた日本有数の能楽堂です。外観は名古屋城との調和を意識し伝統的な日本建築様式を取り入れ、屋根は入り母屋形式で、母屋に瓦、下屋には銅板を使ったデザインとなっています。

舞台の背景となる鏡板は、老松が描かれるのが習わしですが、ここでは「若松」と「老松」の2種類の鏡板が1年ごとに入れ替えられています。「若松」は杉本健吉、「老松」は松野秀世の作品です。

日本の伝統芸能である能楽は、ユネスコの無形文化遺産に登録され、世界的にも高い評価を受けています。

それらは南北朝時代から室町時代初期にかけて発達し、江戸時代中期にほぼ様式の完成を見ました。尾張藩の中心地として発展した名古屋において、能楽はその文化の重要な一部でした。初代藩主の徳川義直や2代藩主の光友は、自身が舞手を務められるほど能を愛していたと言われています。

伝統芸能の普及や文化活動、観光の振興を目的とした名古屋能楽堂は、今後も、名古屋の文化の拠点として、多くの人々に愛され続けることでしょう。

さらに詳しく知りたい方は、こちら ➡

◆参考文献◆

『名古屋市史』(Sc-ナ)

『Nagoya Book』(Se-テ)

『建築年報(平成9年度版)Vol.7』(2B13-97)

『新建築』72 (10), 169-177, 1997-10

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『隈研吾 オノマトペ 建築 接地性』

著者:隈研吾
出版社:エクスナレッジ
請求記号:Id-ク

東京オリンピック会場となった新国立競技場の設計者であり、世界を舞台に活躍する建築家である隈研吾自身が解説を付し、建築の新しい方向を示した画期的作品集。

オノマトペとは擬音語や擬態語のこと。言語によって状態や動作を表現するものである。「つんつん」「ぐるぐる」「ばらばら」といった13のオノマトペによって2005年から2015年までに至る56の建築を分類し、全頁カラーで紹介する。



『英国の本屋さんの間取り』

著者:清水玲奈, 赤松かおり(絵)
出版社:エクスナレッジ
請求記号:Id-シ

イギリスでは2016年以降独立系書店の数が増加し続け、20年以上にわたる書店減少の傾向が確実に反転したと言われている。

古い駅舎や元銀行の建物を利用した本屋、運河に浮かぶ船の本屋など個性的な本屋によって、書店に足繫く通う読者たちと書店員や著者たちが一体となったゆるやかなコミュニティが形成されている。それらを間取りイラストと多数の店内写真から紹介する一冊。



『近世古文書用語辞典』

編者:佐藤孝之, 天野清文
出版社:天野出版工房, 吉川弘文館(発売)
請求記号:Aa-サ

江戸時代の言葉をとりあげ解説を加えた用語辞典。古文書に登場する言葉は現在と異なる意味のものや、江戸時代独特の言い回しがある。表記の仕方も現在と異なるものがあるため、見出し語の漢字表記は当て字や誤用といった江戸時代に使われた表記も併記し取り入れてある。具体的な例文を多く掲げ、原則として現代文を付されており、「候文(そうろうぶん)」と呼ばれる江戸時代の文章を初学者が理解する手助けとなっている。



1

まちづくりスキルアップ講座 「まちづくり活動のためのチラシデザイン講座」

2回
連続

まちづくり活動団体のためのチラシデザイン講座を開催します。「チラシを作ってるけど、効果を感じない…」「もっと伝わるチラシが作りたい…。」そんなお悩みありませんか！

NPOの広報物デザインを数多く手掛ける講師からCanva（基本無料で利用可能なデザインツール）について、「活用するメリットは？」「伝わるチラシとは何か？」など、広報の考えからデザインまでを2日間かけて学びます。

日 時：2025年1月26日（日）10：00～15：00
2月16日（日）13：00～15：00

場 所：名古屋都市センター11階ホール

講 師：小さなNPOを応援するグラフィックデザイナー 林田 全弘氏
主 催：公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

※申込方法など、詳細は名古屋都市センターHPをご確認ください。

2

令和6年度歴史まちづくり連続講座 第3回「尾張名所図会と名古屋三大祭」を開催します

江戸時代に観光ガイドとして各地で刊行された名所図会の一つ、「尾張名所図会」から当時の名古屋の様子と、名古屋三大祭（東照宮祭、三之丸天王祭、若宮祭）をひも解きます。

講 師：尾関利勝氏（㈱地域計画建築研究所 名古屋事務所顧問）

場 所：名古屋都市センター 11階ホール

日 時：2025年1月18日（土）14時～（予定）

主 催：公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

3

令和6年度第3回まちづくりセミナー 「先進事例から学ぶ名古屋の水辺創造について」を開催します

淡路島の地方創再生を視野にいれた統合的なエリア開発を目指す株式会社バルニバービの佐藤氏と、葛西臨海公園をはじめPFIなどを通じて公園再生事業を展開する株式会社ゼットンの鈴木氏に取組みを紹介いただきながら、今後の水辺創造について考えます。

登壇者：佐藤 裕久氏（株式会社バルニバービ 代表取締役会長）
鈴木 伸典氏（株式会社ゼットン 代表取締役社長）ほか

場 所：名古屋都市センター 11階ホール

日 時：2025年1月8日（水）13時～15時

主 催：公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

共 催：名古屋市、名古屋港管理組合

4

企画展「まちづくり広場・東海 2024」開催します

（一社）日本建築学会東海支部都市計画委員会と名古屋都市センターが共同で開催する本企画。

主たるテーマとして、「地域主体のまちづくり」を設定し、様々な地域主体の取組みを知り、学び合う場となることを目指し、まちづくり活動団体や行政等によるまちづくりに関わる仕組みや活動事例を紹介するパネル展示等を行います。

場 所：名古屋都市センター11階 まちづくり広場

展示期間：2025年1月8日（水）～26日（日）10：00～18：00

主 催：一般社団法人 日本建築学会東海支部都市計画委員会

共 催：公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

5

寄贈いただきました

レゴランド・ジャパン合同会社よりレゴ®ブロックで作られた金山南ビルを、株式会社日建設計より、名古屋城周辺・三の丸地区から中心部栄エリアまでの区画を400分の1スケールで再現した都市模型をそれぞれ寄贈いただきました。



6

まちづくりライブラリー 特別整理期間による休館日のお知らせ

休館日 2025年1月29日（水）～2月7日（金）

特別整理期間として蔵書点検を実施いたします。

休館中のご返却は、返却用ブックポストをご利用ください。

取扱時間 7：30～21：00





名古屋市内の文化財等をご紹介します。

歴史 まちを巡る



歴まちくんとおとも



休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は直後の平日) 年末年始(12月29日～1月3日)
公開時間 午前10時～午後3時30分 入館料 無料

文化のみちにつむ旧豊田佐助邸 (名古屋市指定認定地域建造物資産)

旧豊田佐助邸は文化のみちのエリアにあり、近代建築が残る白壁・主税・檀木町並み保存地区に残る貴重な歴史的建造物の一つです。

民間会社が所有し、老朽化のため除却予定でしたが、名古屋市との協議により市が無償貸与を受けました。

その後、名古屋市や市民団体による各種イベントが開催され、平成12年からは(財)名古屋都市整備公社(現(公財)名古屋まちづくり公社)が名古屋市から活用・管理業務を受託し公開しています。

●建物の概要

旧豊田佐助邸は、発明王豊田佐吉の実弟豊田佐助により大正12年(1923)に建てられた、木造瓦葺2階建ての和館とそれ以前に建てたと思われる木造陸屋根2階建ての洋館で構成されています。

洋館は白色のタイル張り、和館は黒漆喰塗り、下見板張りの外壁で仕上げられています。

旧第二豊田ビル(現シンフォニー豊田ビル)の再開発において用いた都市再生特別地区(平成24年都市計画決定)の公共貢献として、旧豊田佐助邸の保存改修が実施されました。

●見どころ

洋館正面玄関のポーチの床と玄関の床では、同じデザインで明暗を反転させたタイル張りとなっています。

洋館1階の玄関を上がり左側の洋間の天井四隅の換気口には、鶴亀がデザインされ、その中に「トヨ田」の文字が隠されています。

2階の和室には幾何学模様のモダンな障子欄間が設けられ、部屋を間仕切る襖は金泥で彩られ、襖絵の天幕には豊田佐助の家紋である「丸に木瓜」や山水が描かれており、和洋折衷の意匠が見られます。

和館1階南西の和室には床の間・床脇・付け書院が、2階の南西和室にも床の間・床脇・琵琶床・付け書院が設けられ、典型的な書院造の形式となっています。

また、1階北東の和室の押入れの壁では、建設当初に設置された筋違を見ることができます。現在よく目にする筋違とは若干形体が異なっていますが、明治24年(1891)の濃尾地震により明治26年に木造建物の補強方法として筋違(斜材)の挿入が推奨されたことや、大正12年(1923)の関東大震災の影響もあり設置したと思われます。

この他にも見どころはたくさんあります。また、毎週火・木・土曜日には、NPO法人東区文化のみちガイドボランティアの会によるガイドが行われています。

《参考文献》

旧豊田佐助邸耐震改修工事報告書 名古屋市 アーバンアドバンス No.80 名古屋都市センター

公益財団法人 名古屋まちづくり公社



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>

ISSN:1341-6820



この印刷物は再生紙を使用しています。

利用案内●どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

【12階】まちづくりライブラリー

火～金曜日: 10:00～18:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

※休館日: 月曜日(祝休日の場合はその翌日)、
年末年始

まちづくりライブラリーは、
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS
やってます!

